

TUT FORMULA



特集

新体制発足!!

- ・新体制紹介&挨拶
- ・メンバー紹介
- ・イベント報告

活動報告書 ver. 1 発行日：2012 3. 30



2012 シーズン役員

第10回大会に向けて TUT FORMULA は新体制を発足しました。
役員達に今シーズンの意気込みを聞きました。

部長



今シーズンの部長を務めます、学部3年機械システム工学課程の白木 翔平です。全体のスケジュール管理が部長の主な仕事になります。大会までの1年間の部員の作業が滞りなく進めることができるようにマネジメント業務を頑張っておこなっていきたくです。また、昨シーズンは工場での旋盤作業で部品の製作を行いました。今シーズンも工場作業を中心に車輛製作に関わることが多くなると思いますが、昨シーズンの経験を活かしてより早く、より正確に部品を製作していきたくです。

副部長



今シーズンの副部長を務めます、修士1年機械工学専攻の高野 大和です。学部3年のときにも務めさせていただきました。そのときの経験、反省を活かし、部長、そしてチームをサポートしていきたくと思えます。車輛製作においては、パワートレイン班として性能及び信頼性の向上を目指してエンジンをさらに煮詰め、動的競技でその成果を発揮し、オートクロス10位へとつなげていきたくと考えています。修士ということもあり、活動に参加できる時間も限られてきますが、頑張っておきたいです。

副部長



昨シーズンより引き続き、副部長を務めます、学部4年情報工学課程谷地中 宏基です。1年間を通して得た知識・経験を活かして部長をサポートし、部全体を支えていけるよう尽力していきたくです。

車輛製作に関しましては、更なる溶接技術の向上を目指します。また、パワートレイン系統について昨シーズンで成し得なかったことを実現し、競技において十分な力が発揮できるよう、大会へ向けて万全の状態を築きあげていきたくです。1年間よろしくお願ひ致します。

テクニカルディレクタ



今シーズンのテクニカルディレクタ(TD)を務めます、学部3年生生産システム工学課程の田中 遼丞です。この役職は車輛の方針を決め、設計、製作を行う上で非常に重要な役職なのでプレッシャーも大きいですが、車輛を製作していることをより強く実感できる役職でもあると思うので、楽しんでいきたくと思えます。今シーズンはメインメンバーとなる学部3年生が少ないですが、チームの仲間とがんばっていきたくです。

渉外・広報



今シーズンの渉外・広報を務めます、学部3年知識情報工学課程の山田 真理です。この役職は、スポンサーの皆様との連絡・交渉を行い、皆様に活動を伝える私たち TUT FORMULA と外部をつなぐ架け橋となる重要で責任の大きい役職であると同時に、非常に貴重な経験の出来る素晴らしい役職でもあります。ひとりでも多くの人に私たちの活動を伝え、TUT FORMULA の素晴らしさ、ものづくりの楽しさ、感動、喜びを知ってもらい、共に分かち合えるよう努力致しますので、1年間よろしくお願ひ致します。

会計



今シーズンの会計を務めます、学部4年生生産システム工学課程の赤松 陽介です。皆様のお金を預かる大切な役職であり、車輛の製作にも大きく影響する部分であるため、責任をもって役職を務めてまいります。また、車輛製作においても、担当である CFRP についてさらに知識を広め、技術を身に付けたいと思えます。先端材料である CFRP に触れることのできる機会を大切にしていきます。昨シーズンは悔しい思いをしたので次こそは全ての動的種目で完走したいです。

メンバー紹介

2012 シーズンのメンバーを紹介します。

制作チーム

高野 大和	修士 1 年	機械工学専攻
松井 雄介	修士 1 年	機械工学専攻
赤松 陽介	学部 4 年	生産システム工学課程
高岡 碧	学部 4 年	生産システム工学課程
谷地中 宏基	学部 4 年	情報工学課程
井上 尚人	学部 4 年	知識情報工学課程
白木 翔平	学部 3 年	機械システム工学課程
田中 遼丞	学部 3 年	生産システム工学課程
山田 真理	学部 3 年	知識情報工学課程
吉田 昂平	学部 1 年	機械工学課程

サポートチーム

赤澤 直哉	修士 2 年	機械工学専攻
石川 誠人	修士 2 年	電気・電子情報工学専攻
太田 比奈子	学部 4 年	機械システム工学課程
原田 匠	学部 4 年	機械システム工学課程

交流会・報告会

10・12 月は活動報告会と技術交流会がありました。

活動報告会



10 月 21 日に本学内で TUT FORMULA の 2011 シーズン活動報告会を行いました。この報告会の目的は 1 年間の活動報告とスポンサーの皆様と交流を深める懇親会を行うことです。

活動報告では 2011 シーズン部長の赤松が発表を行いました。発表中はスライドが進むたびに、チームのメンバーと過ごした思い出がよみがえり、来年もこのメンバーで車両が作りたいたいという思いが強くなりました。活動報告会後の懇親会では部員がスポンサーの皆様と交流を深めることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

私は昨シーズンの活動報告会には参加していないため、運営上苦労したり、不備があった場面がいくつかあったと思いますが、非常に良い体験になりました。今回幹事をしたことで、指示の出し方や、運営の仕方等勉強になったので、これからのチーム運営に活かしていきたいと思います。

(田中 遼丞)

技科大祭

10 月 1・2 日に行われた技科大祭で、TUT FORMULA ではマシン展示とデモ走行を行いました。

今年の技科大祭では TG06 のデモ走行を行いました。封鎖されたエリアを 5 往復ほどしました。走行場所がメインステージから遠く、あまり多くの人にお見せすることが出来ませんでした。子供から大人まで様々な方が興味深そうに見ており、走行終了後に「すごい」と言っていただきました。また、TG06 と紹介パネルの展示では実際に車両に乗っていただきました。車両に乗られた方は皆、「視線が低い」、「コックピッドが狭い」と驚きながらも「かっこいい」と言ってもらえました。このような交流を通じて学生フォーミュラ、TUT FORMULA の魅力をより多くの方に伝えていきたいと思いました。



(吉田 昂平)

上智大学交流会

10 月 22 日に上智大学で行われた技術交流会に参加しました。数チームがマシンの特徴やチームの運営等に関するプレゼンテーションを行いました。他チームの話は非常に興味深く、特に運営に関するプレゼンテーションでは、少人数で大会に出場したチームの発表等、今シーズンの活動の参考になる貴重な意見を聞くことが出来ました。その後は、全体でのフリーディスカッションを行いました。車両に対する各大学の意見や考え方を知ることができ、よい刺激となりました。



技術交流会が終了してからは懇親会が行われました。この交流を通じて、普通では知ることのできない他大学の苦労や努力を知ることができ、自分達も頑張らなければならないと再認識しました。

このような技術交流会が盛んに行われることで日本学生フォーミュラのレベルが向上すれば良いなと思いました。

(山田 真理)

名古屋大学静的交流会



11月26日に名古屋大学で開かれた静的交流会に参加しました。この交流会では、ホンダマイスタークラブの森 久男様、自動車評論家の両角 岳彦様の講演を拝聴し、分科会*に参加しました。分科会では各チームのプレゼンテーション審査に対する取り組みについての発表を聞き各チームのプレゼンテーション審査に対する考え方や取り組み方について意見を交換しました。特にプレゼンテーション構成や話し方、質問の事前準備などで自分たちと異なるアプローチのチームの方と交流できとても参考になりました。また、交流会の後に行われた懇親会では中部地区のチームの方を中心に活動の交流ができチームの運営や設計の進捗などお互いに質問や意見の交換ができとても有意義な経験をする事ができました。

(白木 翔平)

*: コスト審査、プレゼンテーション審査等の分野ごとに別れ行う会議。

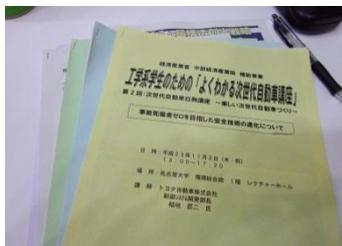
講習会

11月は自動車に関する講習会がありました。

第二回次世代自動車白熱講座

11月3日に名古屋大学で開催された、第2回次世代自動車白熱講座に参加してきました。このイベントでは、EVに関する最新技術を主体とした「次世代自動車の最新性能や安全性とそれを支える機械制御技術」について、自動車メーカー・自動車部品メーカーの実務家の方に事例を交えた講演をしていただきました。会場では日産 LEAF の展示も行われ、講演を踏まえた観点から改めて車輻を見ることで、今まで漠然としたイメージしかなかったEVについての技術を身近で感じる事ができました。また、講演会だけではなく講演者と学生の座談会も開催されました。この座談会では、EVに関する技術のみならず、現在の自動車業界についての話題も挙がり、現在の産業界のニーズに対応できる技術や人材についても学ぶ事ができました。

(谷地中 宏基)



展示会

11・12月に行われた展示会で車輻展示と説明を行いました。

エレクトロニクスショー2011

11月15・16日に「フロンティア 21 エレクトロニクスショー2011」が開催されました。中部地域の企業や大学が電子・情報技術を主体に、ものづくりや先端技術を紹介する展示会であり、私達はものづくりを行う部活として、カーボンホイールや過去に製作したハブやサスアームなどの部品、パンフレットやポスター、活動の写真などを展示しました。エレクトロニクスが中心でしたが、来場された方々は私達の活動を興味深く聞いてくださり、活動の写真や製品を使って、どのように車輻を製作しているかを説明しました。今年製作したカーボンホイールでは、実際に持っただきその軽さに驚かれたようでした。

また、EVについても聞かれることもあり、EVへの関心の高さを感じました。展示を通して僕達の活動に興味を持ってくれる方が増えてくれたらいいなと思いました。

(井上 尚人)



あいち ITS ワールド 2011



12月22日から25日の4日間にわたり名古屋モーターショーと同時開催された「あいち ITS ワールド 2011」に出展し、TG06と自分達が製作した部品を展示しました。

4日間の展示で非常に多くの様々な方が展示ブースに来て下さりました。ほとんどの方がカーボンモノコックの車輻を私たちが製作したことに驚くと同時に、自分達もこのような活動をやりたかった、楽しそうだとおっしゃってくださいました。

また、来てくださった方の中には過去にF3のセッティングメカニックをしていらした方などもおり、私達が車輻について説明するだけでなく、逆に私達が車輻についてアドバイスや説明を受ける場面も多々あり、非常に勉強になりました。

更に、一般の方だけでなく企業の方も多くいらしており、車輻について大きな関心をお持ちいただき共同研究のお誘いをしてくださる方もおられました。

車輻の製作だけでなくこのような経験も非常に貴重ですので今後も積極的に参加していきたいです。

(山田 真理)

新部長挨拶

皆さんこんにちは、部長に就任しました白木です。私たち TUT FORMULA は昨シーズンの全日本学生フォーミュラ第9回大会で事前準備の成果で車検を予定通り合格し全ての動的競技に参加することができました。しかし、4日目のプラクティス中からエンジンの不調の傾向が現れ、最終競技のエンデュランス中にエンジントラブルによってリタイアという悔しい結果となってしまいました。今シーズンの活動ですが、この第9回大会の結果から「動的競技に強い車輛」製作を目標に活動を開始しました。上位校との差を感じたオートクロス競技での成績を上げるために車輛の信頼性はもとより旋回性能の向上を目指します。また、結果を左右するドライバーの練習を充実させるため、車輛の早期完成を目指し、スケジュールの管理を強化していきます。メンバー一人一人の努力とチームワークでより良い車輛をつくるために私たちは活動していきます。

最後になりましたが、日頃お世話になっているスポンサーの皆様、学内関係者の皆様、OBの皆様、今後も TUT FORMULA をよろしくお願い致します。



自動車研究部
部長 白木 翔平

広報から

2012シーズンの報告書を担当致します、渉外・広報の山田です。TUT FORMULA は車輛を製作し大会に参戦することが目的であり、最も重要なことです。しかし、スポンサーの皆様のご支援、周りの方々のご理解がなければ大会に出場することは出来ません。

私は、渉外・広報の仕事は車輛製作以上に重要なことだと考えています。チームの仲間たちと車輛を製作することは大変素晴らしい経験ですが、それ以上にスポンサーの皆様との連絡・交渉を行うことは貴重な経験であり、それを通じて生まれた皆様との繋がりは何事にも変えることのできない一生の財産になると思います。

TUT FORMULA はスポンサーの皆様との“人と人の繋がり”で成り立っています。私は、今まで以上に私たち TUT FORMULA について知ってもらい、皆様にとって TUT FORMULA がより身近な存在になること、愛される存在になることが夢であり今シーズンの目標であります。

目標が実現できるよう微力ではありますが、自分ができることを考え、全力で実行していきます。また、皆様からのご希望やご要望がありましたら出来る限りで対応したいと思いますので是非ご連絡下さい。初めての仕事で不慣れな部分も多くあり皆様にご迷惑をおかけしてしまうかもしれませんが、よろしくお願い致します。

(渉外・広報 山田 真理)



豊橋技術科学大学 自動車研究部 TUT FORMULA
活動報告書 ver.1

平成 24 年 3 月 30 日 発行

発行者 〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学 自動車研究部TUT FORMULA

web サイト <http://tut-f.com/> e-mail info@tut-f.com